

# 空間領域の家



## 限られた敷地内における空間エフィシェンシーの追求

都市型住宅において、限られた25坪の敷地に駐車2台を確保したいというクライアントの要望を受け、空間効率の最大化を目指した。駐車スペースを確保しながら、1階の居住空間を最大限に活用する「空間のエフィシェンシー」を追求している。

## 最小限のフットプリントとフローティングにより空間最適化

建物の基礎部分が敷地に占める面積、いわゆる「フットプリント」を最小限に抑え、建物両サイドにスラブオーバーハングを施すことでフローティング形状とした。これにより、限られた敷地内でも駐車スペースと居住空間の共存を可能とし、空間効率の最大化を実現した。

